

ロンシャン2021年春夏コレクション
「très paris〜現代のパリジェンヌを讃える調べ〜」



ロンシャンは、2021年春夏コレクション「très paris〜現代のパリジェンヌを讃える調べ〜」を発表いたします。本コレクションでは、現代のパリジェンヌにインスピレーションを得て、彼女たちに宿る女性らしさ、そして肩肘張らずに自らを表現する秘めたエネルギーを全37ルックに落とし込みました。

アーティスティック・ディレクターのソフィ・ドゥラフォンテーヌは「2021年春夏コレクションをデザインするにあたり、クラシックなパリジェンヌが得意とする、いわゆる“洗練された”スタイルから少し距離を置くことに決めました。コレクション全体に共通する大胆でわずかにオフビートなスタイルは、“王道からはあえて外れて、自分のペースでゆるく生きる”という現代のパリジェンヌが持つ小生意気さを表現し、同時にロンシャンのスタイルであるカジュアルさと奔放さも溶け込んでいます」と語っています。

<インスピレーションとカラーパレット>

今回のコレクションは、メゾン発祥の地パリに暮らす現代のパリジェンヌ、そして3人のアーティストによる作品群に影響を受けています。コレクションに散りばめられたメタリックな仕上げ、そしてはっとする鮮やかな色使いは、アメリカ カリフォルニア州出身の現代美術家であるジェームズ・タレルへのオマージュです。タレルは、光と空間を題材に掲げ、光を知覚する人間の作用に着目したアーティストであり、日常生活では意識することがない光の存在を認識させるようなインスタレーション作品を数多く制作しています。また相反するように登場するコーラルやくすんだオレンジピンクといったカラーは、フランス パリ出身の彫刻家ルイズ・ブルジョワとイタリア トリノ出身のアウトサイダー・アート表現者キャロル・ラマの作品にインスパイアされています。ブルジョワとラマは分野こそ違えど揃ってフェミニニティーが創作の源のひとつであった女性芸術家です。

<プレタポルテ>

パリジェンヌに贈る本コレクションは、スカート、トップ、シャツのフロント部分などに大胆に施されたマクラメがキーノートとなり、遊び心やカジュアルな雰囲気演出しています。その特徴的な網目は、プリントとしてもアイテムやバッグ、アクセサリーに登場いたします。またプレタポルテ全体の流れとしては、ロンシャンウーマンがもつ二面性とフェミニニティーを表現するかのように、ジップアップのスウェットシャツやジョガーパンツといった動きのあるスポーツウェアが加わる一方で、目を見張るようなイギリス刺繍があしらわれたロマンティックなルックも展開します。

「洗練された男性のワードローブにインスパイアされたテーラードアイテムも織り交ぜ、官能的な側面を出したいと考えました。かっちりしたルックをあえて色鮮やかな色で表現したり、素材で遊んだり、フローラルプリントのようなデザインを施すことで、よりフェミニンに仕上げることにしたのです。」

ソフィ・ドゥラフォンテーヌ

<バッグコレクション>

「ル プリアージュ®」

メゾンを代表するアイコン的なコレクションの新作にはゴージャスなメタリックキャンバスを用い、今季らしいシャイニーな装いに刷新しました。サイズは引き続きナノからメガまで豊富に展開しており、特にナノサイズは首にかけて印象的なスタイリングに仕上げることも可能です。また 2021 年春夏コレクションでは、コットン製のネットバッグで有名なフランスのメーカーFILT（フィルト）社と手を組み、ユニークでオフビートな新作も登場いたします。コットンメッシュのボディに「ル プリアージュ®」のロシアンレザー製ハンドル/フラップを合わせた新作は、夏の装いにアクセントを添える究極のトートバッグに進化いたします。

「メールボックス」

2020 年秋冬コレクションで新たに登場した「メールボックス」コレクションは、装いを新たに登場いたします。今季はロンシャンの9つのアルファベットでデザインされたLGPモノグラムプリントとデニム素材をバッグ全面で大胆に組み合わせたり、クロコの型押しバーニッシュレザーを切り替え部分に用いたり、コントラストを効かせたバッグに仕上げました。

LONGCHAMP

PARIS

「ロゾ」「ロンシャン 1980」

「ル プリアージュ®」と同じ 1993 年に生まれた「ロゾ」、そして 1980 年に発売されたバッグをリバイバルした「ロンシャン 1980」は、ブランドの礎とも呼ぶべき存在感を放っています。今季はなめらかなビニールスタイル、そしてクロコの型押しレザーという 2 種類での登場となります。

新コレクション「ブリオッシュ」

今夏にデビューを飾る新作は、パリジェンヌが愛してやまない菓子パンのようにふわふわなシルエットでかたどられたクロスボディバッグです。柔らかなパット入りレザーに調節可能なチェーン付きと、未来の it バッグになり得る要素が満載です。

「メゾンが誇るサヴォアフェールを活かした、本格的な新コレクションをデザインしたいと考えていました。何年にもわたって愛用いただけるような、高い耐久性とより良いデザインを兼ね備えたバッグを目指しました。」

ソフィ・ドゥラフォンテーヌ

ロンシャン 2021 年春夏コレクション「très paris～現代のパリジェンヌを讃える調べ～」は、ソフィ・ドゥラフォンテーヌの“Less is more. (少ないことは豊かなこと)”という精神に基づき、現代に生きるパリジェンヌがもつ気張らないゆるさのあるワードローブを提案いたします。

【ロンシャンについて】

1948 年にフランス パリでジャン・キャスグランが創業した、現代性溢れるラグジュアリーとクリエイティビティ、ダイナミズムが融合したメゾンブランド。パイプにハンドステッチレザーを巻いた、世界初のラグジュアリー革巻きパイプからはじまったブランドは、70 年以上に及ぶヘリテージを踏襲しながら、現代に生きるロンシャンウーマンを彩るスタイルを発信し続けています。ロンシャンは、1993 年に発表した、折り紙からインスパイアされた「Le Pliage® (ル プリアージュ®)」やバンブーのトグルが印象的な「Roseau (ロゾ)」など、フランスのサヴォアフェールが宿るアイコンックかつタイムレスなバッグコレクションを世に送り出してきました。現在は、アーティスティック・ディレクター ソフィ・ドゥラフォンテーヌのもと、フレンチ・エレガンスを再解釈したプレタポルテや、レディース・メンズ向けのバッグ、アクセサリ、シューズ、アイウェア、トラベル用品を毎シーズン発表しています。

家族経営の伝統を守るロンシャンは、今もキャスグラン家が所有・経営、世界 80 か国に 300 を超える直営ブティックを所有しています。日本では、2019 年 7 月に「ロンシャン ラ メゾン銀座」が誕生し、フラッグシップである表参道・銀座のラ メゾンを含む 54 ストアを擁します (2020 年 9 月時点)。また、フランス セグレに構えるアトリエを拠点にクラフトマンシップを重んじるロンシャンは、2007 年以降、フランス政府により無形文化財企業に認定されています。

【掲載時のお問い合わせ先】

ロンシャン (ロンシャン・ジャパン) TEL 0120-150-116

公式オンラインストア <https://www.longchamp.com/jp/ja/>

Facebook <http://www.facebook.com/Longchamp.japan>

Instagram <https://www.instagram.com/longchamp/>

Twitter http://twitter.com/Longchamp_JP

LINE @Longchamp.Japan

ロンシャン・ジャパン株式会社
マーケティング&コミュニケーション部 PR 伊藤 (03-3478-1705 | y.itoh@longchampjapan.co.jp)